

4歳児 保育指導案

尾道市立木ノ庄東幼稚園

- 1 日時 令和元年11月13日(水)
- 2 場所 幼稚園保育室・園庭
- 3 学級 4歳児 ひまわり組 19名(男児12名 女児7名)
- 4 幼児の姿と教師の願い

(1) 幼児の姿

①クラス全体の子供の姿

自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ中で、興味のあることに夢中になって遊んだり、気の合う友達と関わって遊んだりして、やりたい遊びをじっくりと楽しんでいる。また運動会を終えた後から、みんなと一緒に活動することを楽しんだり様々な遊びに興味関心が高まったりしている。鬼ごっこや固定遊具などいろいろな遊びをやってみようとする姿が見られ、お話ごっこ(ペープサート)やキッチン屋さんなどでは遊びに必要な物を友達と一緒に作り、友達とのやり取りを楽しむ姿が見られる。友達との関わりが増える中で、自分の思いがうまく表現できず、トラブルになることもある。

②遊びにおける子供の姿(本日の遊びに至るまでの経過)

戸外遊びでは、友達を誘ってだるまさんがころんだや鬼ごっこをしたり、うんていや登り棒などに挑戦したりして、体を動かして遊ぶ姿が見られる。また、「小さいおうちと鬼が言ったら小さいおうちに逃げるよ」「その逃げる間に捕まえんとだめなんよ」などルールを自分たちで考え楽しむ姿も見られる。

園庭に落ちているドングリを使い、いろいろな廃材を組み合わせて、ドングリ転がしの台を作り「ピタゴラススイッチができた!」「おもしろい!」と楽しんでいる。「ここが膨らんどるけー、つまるんよ」「工事してなおさんと」など友達とアイデアを出し合いドングリ転がしを楽しんでいる。「この丸い大きいのがよく転がるんじゃない」「小さい軽いのがいいんじゃない」などいろいろ試しながら転がす姿も見られた。

室内遊びでは、海賊ごっこや恐竜ごっこなどなりきって友達とイメージを共有しながら遊ぶ楽しさを味わって遊んでいた。そこから、ストローで花火を作ったり折り紙で恐竜を折ったりして、ペープサートを作りお話作りが始まった。「昔々あるところに」「恐竜がやってきて」「花火が、ドーン! パーン! とあがりました」など友達と好きに話を作りやり取りを楽しむ表現遊びに変わっていった。また、「ハッピーキッチン屋さん」では、数珠の実や千日香を使いタピオカに見立てたり、小枝をポテトに見立てたりしながら秋の自然物を取入れごっこ遊びを楽しんでいる。遊びに必要な物を作り、自分達で遊びの場作りも楽しむようになってきた。「坂道ピタゴラス」で当たり券をもらって、「ハッピーキッチン屋さん」に持っていったらタピオカやポテトが食べられるなどそれぞれの遊びがつながり、自分の思いを出しながら遊び方を考える姿も見られる。

(2) 教師の願い

だるまさんがころんだや鬼ごっこなどルールのある遊びや体を動かして遊ぶ楽しさを味わっている。友達や教師と遊ぶ中で一緒に体を動かして遊ぶ楽しさやルールのある遊びを楽しめるようにしていきたい。また、子供たち一人一人が自分の思いを出し、したい遊びを十分に楽しむことができるように子供たちの気持ちにより添い、見取り、遊びがより楽しめるように環境を子供と一緒に考えていきたい。思いのぶつかり合いが起きた時には、教師が子供たち一人一人の思いを受け止めながら、それぞれの思いをしっかりと聞き出し、必要な言葉を知らせたり、お互いの気持ちに気付いたりできるように関わっていき、友達と遊ぶ楽しさを味わってほしい。

木の実を使って遊ぶなど、秋ならではの素材を使って遊べるように教師も一緒に遊びながら、子供たちの発見や気づきなどに共感していきたい。